



# やのまひか

例会日：毎週火曜日 12：30 例会場：豊川商工会議所  
 会長：山本章吾 幹事：金田 柁宏 SAA：山田久就 会報委員長：笠原盛泰  
 事務局：豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 0533-86-2535 Fax0533-86-8889  
 ホームページ <http://toyokawahoi.tank.jp> Email [hoirc@sala.or.jp](mailto:hoirc@sala.or.jp)

**本年度 40回 通算第 1019回 平成 19年 4月 24日(火) くもり**

ゲスト 陸上自衛隊豊川駐屯地司令 一等陸佐 藤田 穰さん  
 ビジター 豊橋RC 4名 豊橋南RC 2名 豊橋ゴールデンRC 4名 豊橋東RC 3名  
 蒲郡RC 3名 豊川RC 5名  
 出席報告 高木修委員長

会員総数	計算会員数	本日の出席者数	本日の出席率	4/10 修正出席率
57名	51名	27名	51%	86%

司会進行 山田久就 SAA

## 会長の挨拶及び報告 山本章吾会長



こんにちは。本日の例会は、自衛隊の施設をお借りしての開催です。近年の自衛隊に対する国民の理解は進んでいると思います。地域の防災活動など活躍して頂いております。防衛庁から防衛省に昇格をされています。この駐屯地の隊員の増員もあったようですので、そのあたりについても司令さんよりお話が伺えると思います。

先日の 22 日曜日に新城 RC の創立 40 周年の記念式典に幹事と二人で出席してまいりました。地区の関係の方、姉妹クラブの韓国のクラブの皆さんも出席されて大変素晴らしい式典でした。

## 幹事報告 金田 柁宏幹事

例会臨時変更のお知らせ  
 豊橋北・豊橋東・新城・豊橋南 RC  
 ゴルフ同好会コンペについて  
 次回例会について

## 委員会報告

親睦委員会（柴田浩志委員長）  
 5月22日の春の行楽について

## 卓話 陸上自衛隊豊川駐屯地司令

### 一等陸佐 藤田 穰氏



こんにちは。豊川駐屯地にお越し頂きまして、ありがとうございます。今日は、防衛庁が防衛省に移行した話と、陸上自衛隊の災害派遣についてお話をさせていただきます。

まず、この写真を見て下さい。皆さんご存知の豊川駐屯地から隊員をイラクに派遣しまして、派遣期間に黄色いハンカチ運動をして頂きました。隊員が無事に帰国した際に、豊川商工会議所へ報告に行った時の記念撮影した写真です。当時、私は北部方面隊の訓練課長をしており、イラクへの派遣準備の担当をしておりました。北海道でも旭川から派遣をしまして、地元商工会議所の方がこの黄色いハンカチ運動をして下さいました。部隊派遣が北海道から東北、中部方面隊と地域の皆さんが色々協力をして下さいました。本当に感謝申し上げます。

防衛庁から防衛省への移行ですが、本年 1 月 9 日に防衛省に移行しましたが、まさしく地域の皆様のご協力があったことなのです。な

ぜ防衛省へ移行する必要性があったかですが、国家防衛については、今まで軽視されておりました。今までは内閣府の下にありました。イラク人道復興支援などは、防衛庁と外務省が両輪で復興作業をしておりました。日本の防衛は日米防衛を基盤としております。なのにアメリカは国防省、我々は防衛庁で対等ではないイメージです。平成2年から急激に自衛隊に与える任務が増大しました。特に平成7年の阪神淡路大震災やサリン事案などがあり、自衛隊としての任務が増大し、本当に防衛を担う位置づけとして正しかったのか、任務が増大しているのに内閣府の下で良いのか、諸外国との関係として良いのかなどの議論が出て参りました。実は昭和39年からこの件については取り上げられており、平成9年に国会の場で議論をされ、今回の防衛省への移行となりました。

防衛省になって何が変わったかというと、以前は、自衛隊は強いんだという意識でしたが、任務が増えて皆さんの前に行くことが多くなり、行動して評価されるようになってきました。さらに現在では、命を掛けて任務を遂行する時代だと自衛官が全員そのように思っております。日々皆さんのためになるような訓練をしております。

陸上自衛隊の災害派遣ですが、意外と災害派遣は陸上自衛隊がやっていると思われているようですが、これは国なり地方自治体の管轄です。災害から保護する責任は、市町村長や知事なのです。防衛省はそれに対して対応をしております。

災害派遣には、要請派遣、自主派遣、近傍派遣と大きく分類されます。まず要請派遣は、都道府県知事や市町村長からの要請を受けて自衛隊が出動するケース。自主派遣は、早く行かないといけない場合に自主的に出動するケース。近傍派遣は、近隣でおこった災害の際の派遣のケースです。災害派遣の時の3原則として、公共性、緊急性、非代替性があります。地域の民間の方ができる時に我々が出て行ってはいけませんので、この非代替性は重要だと考えています。本当に自衛官でないといけないのか、災害派遣の判断は非常に難しいです。

根本には災害対策基本法がありまして、最終的に判断して、災害派遣、地震防災派遣、原子力災害派遣に大きく分けられます。

我々自衛隊は、平素はどのような対応をと

っているかを説明します。北海道の北部方面隊、東北地域の東北方面隊、東京と静岡の東部方面隊、この地域の中部方面隊、九州と沖縄の西部方面隊が24時間体制を常にとっています。人員が2700名、車両410両、航空機30機が毎日、初動対応の体制をとっています。初動対応部隊は、何か起きた時に1時間以内に初動対応体制をとれるようにしています。自治体に行く連絡員、現場と我々の本部を繋ぐ通信の確保、被災された方の人命救助等をまず行います。そして常に長期戦を考えていますので、まずは活動拠点をベースに捜索、物資輸送、患者空輸、入浴支援、給食支援、最終的には復旧活動を行います。常に最大限の支援を考えております。



平成7年の阪神淡路大震災の時、陸上自衛隊は延べ170万名の隊員を派遣しました。陸上自衛隊最大規模の派遣でした。最初は1500名の隊員を派遣し、その後、全国から隊員を集中派遣させました。地震発生5日目には1万6千名の部隊が集中していました。この地震の教訓として、初動体制の仕方を変えました。そして震度5以上の地震が起こりますと、全隊員が駐屯地に出動をして緊急に備えます。そして自治体など関係機関との連絡も整えました。人命救助等の活動に使う装備も整えました。今までは、都道府県知事だけが災害派遣の要請をしていましたが、市町村長も要請できるようにしました。そしてヘリからの画像装置を充実させ、我々の対応を敏速に行えるようにしました。人命救助等を行う装置は、自衛隊の記念行事の際に展示しておりますので、是非とも記念行事にお越し頂ければと思います。よろしくお願いいたします。

東海地震について少しご紹介します。先日、政府の地震調査委員会が今後30年以内に震度6弱以上の地震が起こる地域を予測しまし

た。愛知県が 37.1%、三重県 61.3%、静岡県 86.5%の確立で起こると予測されています。近い時期に発生する可能性が大了。そして予知型の地震であるということです。そして静岡県を中心に広範囲に渡っての被害があります。防災の会議にいろいろと出席させていることは、その自治体単位でしか対策を考えていないことです。すこし不安に思っています。あくまでも自衛隊は支援をするので、自治体の地震対策への対応を十分に検討された方がよいのではないかと感じます。この地震では、陸上自衛隊、航空自衛隊、海上自衛隊の派遣を考えて計画をしており、早く災害地域に派遣できるように計画の変更もおこなっております。まず中部方面隊で愛知県は対応します。静岡は、東部方面隊で対応します。それ以後、北海道、東北、九州からこの地域へ部隊を順次投入します。

豊川駐屯地の対応としては、13の部隊と1つの事務所があります。豊川には現在約2000名います。特科連隊には1000名います。大砲を60、レーダー等の装備もあります。この東三河と西三河を私が担任しています。この三河は東海地震の強化地域に指定されております。私の下に5名の大隊長がいますので、任務の違う1名を除く4つの地域に分けて担当させています。この豊川駐屯地には、レンジャー部隊を配備しております。災害派遣が起こったときに、レンジャー隊が直ぐに対応できるようにしています。平素は一般の隊員と同じように訓練をし、ほかに特殊な訓練もしております。参考までに予備自衛官も持っています。元自衛官を使いまして、何か起きた時の後方支援をしてもらいます。このような隊員も災害派遣の時には現場に入ります。

災害時の対応は、自治体の皆さんがメインになって対応して頂かないといけません。そこに、警察、消防、我々自衛隊、そして民間の皆さんが協力し合って、横の連携、縦の連携を持って対応していかないといけないと思っています。これからの自衛隊は、地域皆さんとの一体だと思っています。そのためにも豊川宝飯ロータリークラブの皆さんのご支援をお願いしたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。

## 訓練の様子を見学

隊員の皆さんによる訓練を見学させていただきました。小雨の振る中ありがとうございました。



### 次回例会のお知らせ

と き 5月15日(火) 12:30~

と ころ 豊川商工会議所

内 容 ニコボックス委員会担当例会

会報担当者：山口善功会員

このウィークリーは再生紙を使用しています。